

結核に対する米国国際開発庁 (USAID) の取り組みについて

米国大使館
米国国際開発庁 (USAID) 八巻 理恵

USAIDは、1961年にケネディ大統領によって設立された米国政府の援助機関である。米国の開発援助、人道援助を統括し、農業、教育、環境、民主主義、女性支援、緊急援助など多岐にわたる分野で活動し、被援助国が援助のいらぬ状態に前進させることを目標としている。グローバル・ヘルス分野への予算は多く、HIV/AIDS、ポリオ、マラリアなどの疾病の予防・治療から、母子保健、医療制度、途上国の保健政策への支援など幅広く活動している。

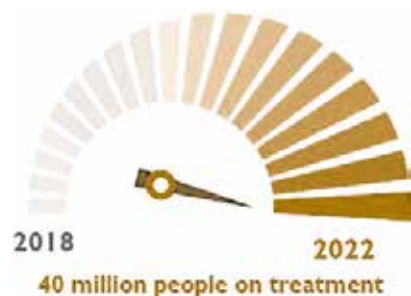
米国政府は結核対策を重要事項とし、USAIDは、結核感染予防、感染者の特定、途上国の能力向上、その国に応じた保健政策策定に協力、結核診断・治療薬やワクチンの開発など、現在23カ国の優先国で活動している。また、グローバル・ファンドの総調達額の三分の一の資金を拠出し、ストップTBパートナーシップもサポートしている。これらのパートナーとの活動を含めると50余りの国で結核対策に携わっている。1998年に1,000万ドルだった予算は、現在は2億6,100万ドルまでに増加し、二国間援助機関では最大の支援をしている。

昨年9月の国連総会結核ハイレベル会合にはUSAIDのグリーン長官が出席し、結核終焉のための、今までの努力の成果をたたえ、引き続きその力を結集して努力をする必要があると訴えた。そして、継続して結核対策にコミットすることを表明し、“結核終焉のためのグローバル・アクセラレーター”と名付けた新しいビジネスモデルを発表した。2022年までに4千万人に治療を提供するという国連の合意目標を達成するために、より効率的なリソースモービライゼーションが必要である。この新しいビジネスモデルにより、USAIDは様々な投資を融合する触媒的な役割を果たしたいと思っている。アクセラレーターとは日本語では“加速者”と訳するのが適当だと思うが、国を超えて、多岐のセクターから結核対策への投資を呼び込み、結核終焉のための活動を加速させていきたい。そのためには、被援助国が様々なリソースを最大限に効率的に活用できることが重要で、それを測定できることが必要である。そこでUSAIDはノースカロライナ

大学に3,500万ドルを提供し、新しい測定法を作るプロジェクトを委託した。また、地域による解決法に焦点を当て、ローカルオーガニゼーションネットワーク (LON) を発表した。LONは市民社会、宗教的奉仕団体、民間セクター、大学・研究所などとパートナーを組んで、地域に根差した結核対策を支援していく。結核診断、治療、予防のためのサービスを向上するためには、地域に即した対応が必要であり、特に結核に対する差別や偏見は複雑で、マルチセクターで対応していかなければならない。このLONで地域の様々な団体からのアイデアを提供してもらい、一緒に結核対策に取り組んでいく。すでに300ものプロジェクトアイデアが集まっている。

援助に力を入れている国の一つにインドがある。インドは、世界の27%を占める結核患者がおり、毎年42万1千人が亡くなっている。ほぼ1分に1人亡くなっている状態である。インド政府は2025年までに結核終焉を目標にしており、USAIDも3,000万ドルの援助を表明し、この新しいビジネスモデルを実施する。すでに、民間セクターとパートナーを組み、どのように職場で結核対策ができるか、民間からのアイデア・資金提供、意識改革を呼びかけている。

インドだけでなく他の国でも、様々な団体とパートナーシップを結び、40x22^{**}という目標達成だけでなく、2030年までの結核終焉のための活動を加速させていきたい。日本にも結核対策に長年携わっている団体、革新的な検査、治療法を生み出している民間の方々があるので、同じ目標に向かって、現場でどのように協力できるか模索していきたい。🐼



※「2022年までに4千万(40million)人に治療を提供する」上のイラストはその目標を示している。